

# 耐震診断結果の見方(耐震診断結果と附表の関係)

建築物の耐震診断は、現行の耐震基準(建築基準法で規定される震度6強から震度7)に対して、地震に対する安全性を評価するものです。  
 安全性の評価Ⅲは、現行耐震基準に相当するものです。安全性の評価Ⅰ又はⅡの場合は、現行耐震基準を下回る評価となりますが、**いずれの評価に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされています。**

建築物の用途ごとにまとめて公表します。

各建築物の耐震化の状況や今後の予定が記載されています。

【学校(小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校)】

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果		耐震改修等の予定		備考
							内容	実施時期	
1	〇〇小学校校舎(管理教室棟)	〇〇市〇〇1-1-1	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s=0.22$	$q=0.89$	耐震改修	平成〇年〇月 ~ 平成△年△月	
2	◇◇小学校校舎	◇◇市◇◇2-2-2	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s=0.46$	$q=0.67$	解体	平成〇年〇月 着手	
3	△△小学校校舎	△△市☆☆3-3-3	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第二次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=0.75$	$C_{TU} \cdot S_D=0.52$	耐震改修	平成〇年〇月 ~ 平成△年△月	地盤指標 $G=1.1$ として診断
4	☆☆小学校校舎(教室棟)	☆☆市☆☆4-4-4	小学校	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第二次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.12$	$C_{TU} \cdot S_D=0.54$	耐震改修	実施済み	用途指標 $J=1.25$ として診断

建築物の名称を記載しています。  
**施設内の全ての建築物ではありません。**

耐震診断に採用した診断方法が記載されています。  
 方法によって、安全性の評価における評価基準が異なります。

耐震診断の結果に基づき、各建築物の安全性に関する指標値が記載されています。  
 指標値を附表と比較することにより、安全性の評価Ⅰ～Ⅲを判断します。  
 例)  
 ・No.1の建築物は、安全性の評価「Ⅰ」に該当します。  
 ・No.2の建築物は、安全性の評価「Ⅱ」に該当します。  
 ・No.3の建築物は、安全性の評価「Ⅱ」に該当します。  
 ・No.4の建築物は、安全性の評価「Ⅲ」に該当します。

附表 耐震診断の評価と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第二次診断法」及び「第三次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

安全性の評価における、指標(Z、G、U等)について、1.0以外の数値により評価を判断している場合、採用した数値を記載しています。また、その他必要事項を記載しています。